

2017年度（平成29年度）

# 事業報告書



公益財団法人キープ協会

# 目 次

2017 年度 事業計画の方針・重点事業	4
-----	
公益Ⅰ. 環境教育事業	5
1. 環境教育	
2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」 指定管理業務	
3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」および 「那須高原ビジターセンター」運営管理業務	
4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
5. 環境研究所	
6. 地域における環境教育事業	
公益Ⅱ. 酪農事業	9
1. 生産農場として	
2. 教育農場として	
3. 実験農場として	
公益Ⅲ. 研修交流事業	11
1. 清泉寮	
2. 自然学校	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ.	
①国際交流事業	14
1. 国際交流事業	
②地域連携事業	
1. ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2017 の開催	
2. 地域連携業務	
公益Ⅴ. 保育事業	16
1. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
2. 自然のリズムを大切にした食事(給食)の推進	
3. 保育の質の向上	
4. 園舎内及び周辺環境整備	
5. 保護者や地域の方々との協働	
6. 卒園児のバックアップ	
7. 自然学校及び環境教育事業部との協働	
8. 視察・研修の受け入れ	

収益Ⅰ. 製販事業	17
1. 2016 年度重点業務	
2. 通常業務	
収益Ⅱ. ホテル事業	19
1. 清泉寮	
本部（管理部門）	20
1. 企画関連業務	
2. 広報関連業務	
3. 職員教育訓練業務	
4. 募金の管理業務	

## 2017 年度事業計画の方針・重点項目

KEEP for the Future2013(公益事業に係る中長期計画)に基づき、2017 年度事業計画を検討・実施します。

### ■公益事業

アクションプラン

#### 1. 教育機能の強化：

キープ協会全体を学校と捉えて、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出します。

#### 2. 一番美しい牧場プロジェクト：

景観やお客様に配慮した設備・案内看板類を充実させます。

#### 3. 環境保全型運営：

キープ協会全体の廃棄物量を削減します

### 【収益事業重点項目】

#### 1. お客様を迎える体制整備：

清泉寮ジャージーハットのリニューアル等、より多くのお客様を受け入れるためのキャンペーンと利便性の向上を図ります。

#### 2. 収益力強化：

各事業部の経費・収益管理を強化し、効率的な事業運営を目指します。

#### 3. ES(従業員満足度)向上：

職員教育・研修や人事制度の見直しを行い、職員が働きやすい職場環境作りを推進します。

## 公益 I. 環境教育事業

子どもからシニア世代までを対象とした「教育」とヤマネの総合的な「研究」を両輪として、また市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働を通して、多様な環境教育事業を展開した。

### 1. やまねミュージアム

#### (1)やまねミュージアムの役割

ヤマネの総合的な研究のさらなる推進、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、ヤマネ保護と森林生物多様性保全の提案、環境教育・環境保全策の普及

#### (2)2017年度の重点目標

魅力的な館内展示および清里・国内での調査研究、ヤマネ研究成果の発信(論文・展示作成等)

#### (3)2017年度の事業実績

- ①ヤマネの総合的な研究の実施（日本国内・イギリス・ハンガリー・イタリア）
- ②ベルギーで開催した「第10回国際ヤマネ会議」での研究成果報告（計4報）
- ③県内外における環境影響評価に関する調査業務 請負
- ④研究成果を活かした環境教育プログラムの研究開発と実践
- ⑤「やまねミュージアム」の管理運営・ヤマネに関する環境教育の実施
  - 1：展示内容の更新
  - 2：ヤマネが棲息する地域の小学校におけるヤマネ出前講座の実施
- ⑥樹上性動物保護の具体策「アニマルパスウェイ(AP)」の普及（一般社団法人 AP と野生生物の会 構成員としての活動）
  - 1：「アニマルパスウェイ製作・建設ガイド（ver.1.0）」の作成
  - 2：第10回 国際ヤマネ会議での事例紹介

#### (4)開館日数、入館者等の実績

表1：2017年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2017年度	2016年度	増減／昨年比
年間開館日数	288	289	▲1（※時間限定 臨時開館含む）
入館者数	20,385	20,154	231／101.1%
1日平均入館者数	70.8	69.7	1.1／101.6%
利用団体数	50	60	▲10／83.3%
団体利用者数	2,332	2,504	▲172／93.1%

### 2. フォレスターズ・スクール

(1)フォレスターズ・スクールの役割

総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供および研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

(2)2017年度の重点目標

- A.宿泊団体及び立ち寄り団体へのプログラム提供の拡大
- B.主催事業の強化

(3)主催

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施した。(表2参照)

表2：2017年主催事業の実績

	2017年度		2016年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	13	335	15	393
日帰り型環境教育プログラム	40	485	21	227

(4)受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから受託事業を受入れた。(表3参照)

表3：2017年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里でのプログラム	学校関係	立教学院、立教女学院、聖心女子学院、山梨学院短期大学、山梨県内外小中学校、北杜市立甲陵高等学校
	行政関係	山梨県、北杜市
	一般	日本環境教育フォーラム、NEC
出張プログラム	行政関係	群馬県、山梨県、北杜市、韮崎市、青少年教育振興機構、青年海外協力協会
	一般	サントリー、電源開発、中部電力、さっぽろ青少年女性協会
合計	237事業	

(5)指導教育

職員のスキルアップのための研修を行った。事業部として3名の実習生を迎えた。また、2名(長野大学、立教大学)のインターン生を受け入れた。

3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(指定管理事業)

(1)山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良い環境の保全と継承に貢献します。

(2)2017年度のテーマ＝暮らし方

(3)2017年度の事業実績

プログラムの開発と実践、施設内外での展示、年度テーマに即した事業の実施、自然資料収集のための調査、教材開発、地域の拠点施設としての活動、周辺の文化施設、地域にあるネットワークとの連携、自然ふれあい施設としてのハードの整備・施設維持管理、自主事業(環境教育関連書籍やグッズ販売、スノーシュー貸し出し)

(4)開館日数、入館者等の実績

表4：2017年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2017年度	2016年度	増減／昨年比
年間開館日	321	321	0／100%
入館者数	96,836	106,492	▲9,656/90.9%
開館（1994.11）以来の 総入館者数	2,105,517	2,008,684	
1日平均入館者数	302	332	▲30/91%
利用団体数	222	328	▲106/67.7%
団体利用者数	12,900	16,653	▲3,753/77.5%
プログラム回数・参加者数	1,171/17,272	293/8,225	878/400% 9,047/210%

※プログラムは2017年度、2016年度において実施内容が異なる。

#### 4. 環境省 日光国立公園 那須平成の森

##### (1)事業実績

###### ①全体

第3期の1年目（1期2期を合わせ7年目）の業務実施、人材育成事業の実施、地域連携の強化、利用促進のための方策を立案し実施、提案書に明記した業務（自然教育プログラム、展示、広報・普及啓発、業務の質の維持向上）、国立公園満喫プロジェクト事業への協力および実施。

尚、那須高原ビジターセンターの運営管理を切り離し、那須平成の森のみの運営管理に変更。また無料ミニプログラムの実施回数を職員規模に合わせ大幅に減らし実施する仕様となった。

###### ②那須平成の森

フィールドセンター運営、プログラム開発と実施、環境教育人材育成事業の実施（他地域へ出向いての人材育成事業を含む）、屋内外の展示制作、公園の環境管理

##### (2)開館日数、入館者等の実績

表5：2017年度那須平成の森の実績

	2017年度	2016年度	増減
<b>●那須平成の森</b>			
年間開館日	322	347	▲25
入館者数	52,894	57,777	▲4,883
(内、立寄り団体利用者数)	9,438	10,784	▲1,346
(公募)個人利用者向け利用者負担 プログラム参加者数(※)	1,524(254回)	1,435(249回)	89(5回)
(※)=ガイドワーク、同特別編、自然体験・学習プログラム、植生管理(トリミング)プログラム			
無料ミニプログラム参加者数(※)	3,165(490回)	4,933(860回)	▲1,768(▲370)
(※) =実施回数を半減する仕様となったため、回数、参加者数共に減少			
(受託)団体利用者向け利用者負担 プログラム参加者数	1,806(63団体)	1,616(54団体)	190(9団体)

#### 5. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、山梨県地球温暖化防止活動推進センター

の指定を受け、次の事業を行いました。

- (1)地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動  
13事業 16日間出展、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、パンフレット・教材の作成及び配布、子ども対象プログラム開催等
- (2)地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う民間団体の活動支援  
やまなし環境教育ミーティングの共催、研修会2回実施、関東ブロック合同研修会への参画、地域協議会交流会の開催、ホームページ・通信等での広報協力等
- (3)日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言 71件 推進員・行政関係者・県民等件対応
- (4)日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析  
山梨県環境家計簿及び全国センターアンケートへの協力
- (5)定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供  
問合せ時等随時の情報提供

## 6. 環境研究所

環境教育事業部の柱の1つとして、事業部横断的に活動を行った。

- (1)環境保全研究  
主にやまねミュージアムが担った（詳細は1参照）。
- (2)環境教育研究  
環境教育プログラム集の編集を進め、学会などでの発表を行った。

## 7. 地域との環境教育事業

### (1)地域との環境教育事業

保育事業部・研修交流事業部と協働し、「森の学童」を実施した。また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。具体的にはフォレスターズ・スクール事業にて、北杜市内全園での環境教育プログラム、市民対象の環境教育講座、市内高等学校・小学校での授業協力、山梨県立自然ふれあいセンター及び山梨県地球温暖化防止活動推進センター事業として、県内各種イベントでの出展事業を行った。



## 公益Ⅱ．酪農事業（キープ農場）

### 1. 生産農場として

#### (1) 牛乳生産（有機 JAS 認定）

年間平均 102 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念した。そのうち 47 頭の搾乳を行い、総生産量 168,941kg の牛乳を生産した。その殆ど（161,941kg）は群馬県前橋市にあるタカハシ乳業に出荷され、低温殺菌による製品化を経て、KEEP 有機 JAS ジャージー牛乳として主に首都圏及び消費者団体に販売、高品質・安心・安全のジャージー牛乳として高く評価されている。

(2) 草地管理面積約 72ha（採草地 45ha、放牧地 25ha その他 2ha）で飼料用牧草を栽培し、乾草、サイレージ用とした。飼料の安心安全・衛生面を改善し、有機 JAS 認定牛乳の生産維持に努力した。

#### (3) 飼育頭数及び乳量

飼育頭数	2017 年度	2016 年度	増減
成牛	54	52	2
育成牛	40	45	△5
哺乳牛	8	13	△5
合計	102	110	△8
内 搾乳頭数	47	45	2
総生産乳量	161,941 k g	157,424kg	4,517 k g

### 2. 教育農場として

#### (1) 農業体験

教育農場としての役割を果たすべく、学校団体向け酪農体験、大型連休・夏休み期間のファームショップ前のイベントを行った。また、製版事業部や企画部とともに『冬のハイライド』を実施し 牛乳の PR と共に冬の清里の風景を多くの方に見ていただいた。（乗車人数 610 人）

#### (2) 実習生受け入れ

後継者育成のため、日本大学（1 名）日本獣医生命科学大学（4 名）及び酪農ヘルパー協会（6 名）の学生による牧場実習体験を受け入れた。

### 3. 実験農場として

#### (1) 山梨県等との協力

山梨県の酪農経営安定の為、山梨県畜産課、酪農試験場、西部家畜保健衛生所、山梨県改良協会、家畜共済、乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力した。また山梨県酪農環境負荷軽減支援事業推進協議会に参加し、酪農環境負荷軽減 支援事業を実施した。

#### (2) 野菜等の栽培

イチゴ（100 g × 200 箱）、大根（800 本）、ジャガイモ（200 k g）などを収穫した。販売先は JA（中巨摩いーなとうぶ）清泉寮や自然学校に販売した。

(3) 家畜伝染病検査（ヨーネ病検査）

2015年7月に発生した家畜伝染病（ヨーネ病）にともない、検査及び消毒を4か月おきに行っている。また、防疫対策として、牛舎内の日々の消毒等を行っている。酪農体験プログラムの予約状況は従来どおりになってきている。

## 公益Ⅲ. 研修交流事業

### 1. 清泉寮

公益財団法人キープ協会の中核施設としての使命と役割を果たすとともに、事業の継続・発展のためにも財政健全化に寄与する運営を目指しました。

- (1) 研修利用に際して求められる設備・食事・プログラム・スタッフなど、受け入れ体制を整え、積極的なマーケティング活動を行うことにより、学校、企業を始め、より多くの研修団体の獲得および継続利用を兄弟施設である自然学校と共同で図り、両施設において、学校団体の新規獲得などに繋がりました。
- (2) 地域生産者との連携を深めた上で、できる限り地元の食材の利用を図るとともに、既成の加工品をできる限り使用しない手作り料理の提供を推進したことにより、地産地消や食の安全といった観点からも顧客の大きな支持をいただくことができました。
- (3) 行政機関の協力や指導を仰ぎ、今後の事業継続に向けた施設の修繕計画を進めました。昨年度に大規模な改修を行った本館の運用開始により、耐震・耐火上より安全な施設と同時に行った内装や備品の更新および全館禁煙化によって、より幅広い顧客層の利用に堪えられるようになりました。また、運用の継続が困難となった温泉設備に代わるものとして、大浴場のボイラーを新設し、湧水を活かした大浴場&露天風呂として、新たな魅力を付加しました。

(団体主要数値)

	2017年度	2016年度	増減／前年対比
宿泊団体数	187件	165件	+22件
宿泊団体利用人数	14,143人	14,107人	+36人

### 2. 自然学校

自然体験を重視し、団体対応利用に特化した清泉寮の兄弟施設として、財政健全化を図りつつ実験的な取り組みを行ってきました。

- (1) 通年営業の清泉寮自然学校、夏季(7月～9月)営業のキャンプ場と、2つの施設を管轄し、団体の受入を積極的に行いました。体験・食事などに関しても、効率的な運営体制を図りました。
- (2) バリアフリーの構造、地元農家と連携した、安心・安全で健康的な食事の提供、低廉な価格設定といった特長を生かし、アレルギー対応や体験内容も幼保・学校・福祉・研修といった団体の要望を出来る限り受け入れる事に力を入れ、団体営業と共に稼働の向上を図りました。
- (3) 「森のようちえん」「やまもりキャンプ」といった看板企画をはじめ、食や自然をテーマとした主催キャンプの実施を行うと共に、受託から派生したグループ・団体と協働した「森整備」「味噌づくり」など、特に親子キャンプを広く展望した上でのジャンル開発の「森のかぞくキャンプ」を進めました。

(団体利用実績)

	2017年度	2016年度	増減/前年対比
宿泊団体数	175件	206件	▲31
自然学校	150件	179件	▲29
キャンプ場	25件	27件	▲2
宿泊団体利用者数	12,435人泊	15,544人泊	▲3,109人泊

(主催企画実績)

	2017年度	2016年度	増減/前年対比
主催企画数	7企画/26回	8企画/36回	▲1企画/▲10回
参加者数	1,012人泊	2,149人泊	▲1,137人泊

### 3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の根幹であるポール・ラッシュの業績を広く紹介する仕組みづくりを進めると共に、財団の広報・教育機能の一端も担い活動しました。

- (1) ポール・ラッシュ精神の継承と伝道および、業績や歴史を紹介する通常の開館業務のほか、ラッシュに関する資料のデジタルアーカイブ化作業の継続を発展的に進め、収蔵資料や美術品の保存・管理業務を行いました。同時に、国内外でのラッシュ関連の資史料の搜索、発見、収集に努めました。これらの活動は、次年度以降も継続します。
- (2) 時期ごとに変化のある企画展を年数回行うと共に、本年度の博士生誕 120 周年記念事業として、特別企画展の開催、立教学院との共同企画展、および音楽祭を行いました。
  - ① 4月から5月にかけて、桜を中心とした作品を選び水墨画家を取り上げた企画展を行いました。
  - ② 5月から12月にかけて「ポール・ラッシュ生誕 120 周年記念特別展」清里編を企画展として行い、8月から2月まで同企画展の立教学院編を行いました。同企画展示にあわせ、ラッシュの生涯を描いたビデオを作製しました。
  - ③ 「アメリカンフットボールの殿堂」施設に関連書籍の大型寄贈を受け、記念ライブラリーを設置しました。
  - ④ 生誕 120 周年記念事業として、企画展開催以外に、記念コンサート、記念礼拝、ポール・ラッシュ像下に記念銘板の設置を行いました。
  - ⑤ クリスマス時期にあわせ、地元の工芸作家 9 名による企画展「クリスマスマルクト」を開催しました。
- (3) 博物館施設として、県・市や対外的な機関との連携や、メディアや SNS を駆使した広報活動を積極的に展開しました。
- (4) 教育普及プログラムの開発と実施を計画し積極的に催行しました。
  - ① 「聖書カフェ」(月一度開催の聖書読書会)
  - ② 「ロザリオつくりワークショップ」(毎日開催)
  - ③ 「古写真を用いたフットパス」(季節開催)
  - ④ 「ミュージアムツアー」(学校・企業団体様向け)
  - ⑤ 「クリスマスマルクト・ワークショップ」(企画展と連動)
  - ⑥ 「アウトリーチ活動」(県内の学校・清里で研修をする学校団体への講義、1月3日に東京ドームで開催された「ライスボウル」へ出張パネル展示)

(5) インターン生の受入

- ① Berea 大学(アメリカケンタッキー州)から 1 名。6 月から 8 月まで。日常業務の他、展示指導や日本語教材の補助指導を行いました。
- ② フィリピン聖公会北フィリピン教区(フィリピン)から 2 名。9 月から 10 月。国際事業部と連携。日常業務を行いました。

(開館日数・入館者数等の実績)

	2017 年度	2016 年度	増減/昨年比
年間開館日数	323 日	300 日	23 日/108%
入館者数	8,532 人	8,518 人	14 人/100%
1 日平均入館者数	26.4 人	28.3 人	△1.9 人/93%
団体数 (小グループ含)	49 件	43 件	6 件/114%
団体入館者数	2,520 人	2,069 人	451 人/122%

## 公益Ⅳ－国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業

### 1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じてキープ協会内外の地域社会・教会関係団体等、多様なコミュニティとの連携を深め、事業内容の充実と発展を図りました。

#### (1) 北杜市ケンタッキー交流事業【北杜市国際交流委員会主催】

北杜市の小中学生、大人の幅広い年齢層の国際交流事業の実施に協力しました。

##### ①北杜市代表団訪米事業

5月15日～5月24日 10日間 16名(団員13名・事務局3名)

##### ②マディソン郡中学生ホームステイ派遣事業

7月25日～8月3日 10日間 12名(北杜市中学2年生10名・引率教諭2名)

##### ③マディソン郡代表団受入事業

10月10日～10月17日 8日間 17名(代表団13名・文化交流員1名・クラフト3名)

##### ④文化交流

(北杜市交流員派遣)5月20日～5月26日 7日間、派遣交流員1名

(マディソン郡交流員受入)10月16日～10月21日 6日間、受入交流員1名

##### ⑤子ども絵画交流

日米小学4～6年生対象、日米各20作品選出、テーマ「美しい自然」

巡回展示2017年5月～9月(マディソン郡内)・12月～2018年2月(北杜市内)

#### (2) 国内外のインターン生の受入れ(6～10月)

日本・アメリカ・フランス・フィリピン等の青年を受け入れ、ポール・ラッシュ博士の精神や功績の次世代への継承・普及を図りました。

##### ①海外インターン生

a. ベリア大学(アメリカ ケンタッキー州) 2名

b. ウェルズリー大学(アメリカ マサチューセッツ州) 1名

c. リール大(フランス) 2名

d. フィリピン聖公会北フィリピン教区(フィリピン) 2名

e. コーディリエラ・グリーン・ネットワーク(フィリピン) 2名

##### ②国内インターン生

a. 立教大学観光学部 1名

b. 立教大学経済学部 2名

c. 立教大学コミュニティ福祉学部 1名

d. 山梨学院大学現代ビジネス学部 1名

e. 山梨県立大学国際政策学科 1名

f. 長野大学環境ツーリズム学部 1名

### (3) 地域への英語プログラムの提供（通年）

海外インターン生や環境教育事業部と協働し英語プログラムを実施し、地域の国際理解・異文化交流を図りました。

- ① 地元地域や首都圏の子どもを対象にした主催・受託プログラムの実施（116回）
- ② 北杜市立長坂小学校の国際理解教育への協力（4回）
- ③ 北杜市立甲陵高校 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業への協力（2回）  
「グローバルに活躍する人材の育成」「社会との共創」のテーマで、海外インターン生を含めた英語による環境教育プログラムを提供しました。

### (4) キープ米国後援会（ACK）との協働事業：

絆プロジェクト（ピース・フィールド・ジャパン主催）の受入れ（8月8日～10日）イスラエル・パレスチナ・日本の3地域の青年を受け入れ、清泉寮での宿泊・食事、ポール・ラッシュ博士の精神や環境教育事業、保育事業を学ぶプログラムを提供しました。

### (5) 北フィリピン青年育成事業への協力

#### ①北フィリピン教区の青年育成事業への協力

同教区の青年リーダー2名をインターンとして招聘しました。また現地青年育成事業への支援を行いました。

#### ②コーディネラ・グリーン・ネットワーク(フィリピン)の森林保全事業への協力

現地環境教育スタッフ2名をインターン生として招聘しました。また、現地森林保全事業への支援を行い、これまで支援してきた現地事業で育成・収穫された有機栽培コーヒーを買い取り、協会内で消費・販売しました。

### (6) 各種国際協力・親善団体との連携（通年）

### (7) ウェブサイトを通じた情報発信（通年）

## 2. 地域連携事業

### (1) ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2017の開催

収穫に感謝する季節に、ポール・ラッシュ精神の顕彰と草の根国際交流の実践を広くアピールし、八ヶ岳に暮らす人々と八ヶ岳を愛する人々の結びつきを強めるため、北杜市をはじめ地域団体との協力のもと、10月14日(土)・15日(日)にポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2017を開催しました。

### (2) 地域連携業務

- ① 八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等、地域の観光団体と組織連携をし、歴史・文化・観光などの側面から地域連携業務に取り組みました。
- ② そのほか、地域の公立学校や私立大学への支援体制作り、地域活性化のために必要な働きに取り組みました。
- ④ 効率的な業務遂行のため、それぞれの事業部と連携・協力しながら柔軟に業務にあたりました。

## 公益 V. 保育事業

キリスト教の精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、また「森のほいくえん」のコンセプトのもと、地域の資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動を重点的に行いました。また、キープ協会の公益事業の中でも、地域社会とのつながりを深めるキーステーションとして、地域との交流事業にも積極的に取り組みました。

### 1. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

「異年齢児保育」については、3・4・5 歳児を二つのグループに分け、模倣や助け合いを目的に育ち合える場作りとして行いました。0・1・2 歳児も年齢別では無く、成長に合わせて 2 グループに分けての活動を行いました。「森の保育」は一年中を通して（雨の日や雪の日も）森に出掛け、季節の恵みを感じながらその時々に合わせての活動を行いました。

### 2. 自然のリズムを大切にされた食事（給食）の推進

自然のリズムに配慮した生産者への理解や旬の食材利用を心掛け、地域の生産者からの食材を購入しました。また、園児とは保存食や森でのクッキングを通して、作って食べることの楽しさや大切さを味わうことを多く経験することができました。アレルギー対応や月齢に合わせた食事の提供に配慮しました。

### 3. 保育の質の向上

「キリスト教保育」は週に一度は教会での礼拝を行い、職員が礼拝での聖話を子どもたちにするために、司祭との勉強の時間を持ち、祈る事の大切さを学びました。「森の保育」「野外におけるリスクマネジメント」は園内研修として、フィールドでの研修を含め、12 回の研修を行いました。また、外部研修にも参加することができました。

### 4. 園舎内及び周辺環境整備

職員や保護者、また地域の方々と環境整備の日を設け、定期的に環境整備を行いました。また、専門家に作業を依頼し、「森庭」の整備に取り組みました。

### 5. 保護者や地域の方々との協働

保護者の協力のもと、「森の楽童」は年に 6 回行い、「水曜文庫」（「文庫活動」）は月に 2 回行いました。

### 6. 卒園児のバックアップ

「卒園児キャンプ」は年 4 回行い、その都度卒園児が保育園で交流を深めました。

### 7. 自然学校及び環境教育事業部との協働

「森の楽童」の実施については自然学校や環境事業部のレンジャーと協働して取り組みました。自然学校とは、フィールドを共用して行いました。

### 8. 視察・研修の受け入れ

年間で 14 団体・約 150 人の視察・見学を受け入れました。



## 収益Ⅰ．製販事業

キープ協会の経済的基盤を支えるため、様々な事業を行い収益の確保に取り組みました。

### 1. 収支動向

(金額：千円)

収入部門	2017年度	2016年度	前年比
売店	278,693	297,288	93.7%
ソフトクリーム	155,331	166,688	93.2%
飲食	67,636	64,901	104.2%
合計	501,660	528,877	94.9%

収入に関しては、繁忙期および週末の天候不順が大きく影響し、入込みが減少しました。ただし、晴天日は前年を上回ることが多く、また冬期は好調だったため、最終的には前年比94.9%（予算比94.7%）でした。

支出に関しては、原価管理および経費の管理強化により、前年比99.2%（予算比93.9%）に抑えました。

### 2. 通常業務

継続的に実施した通常業務は以下の通りです。

- 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮パン工房・清泉寮ファームショップ・清泉寮セレクトショップ・清泉寮新館売店、および清泉寮ソフトクリームラザウオーク店の計7店舗を運営
- ジャージー牛乳から生クリーム・バター・ヨーグルトを自家製造
- 無添加ソーセージを自家製造
- 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開およびメニュー展開
- 付加価値を高めたオリジナル雑貨商品の製作
- 各店舗コンセプトの明確化による複数店舗利用促進
- 各種インフォメーションの充実による複数店舗利用促進
- 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
- 飲食部門に於いては「人と地球の健康」をキーワードとした食の安全と環境への配慮を強く意識したメニューを展開
- キープ農場産の牛肉を使用したメニューを展開

- 自家製乳製品を多用したメニューを展開
- 物産展および催事等への出張販売（別表参照）
- ギフト需要に対応した 自社通販および百貨店等の産直販売
- 独自のルートによる 海外製品の直輸入
- 顧客満足度を高める 接客・サービスの向上
- 子供向け設備・サービスの充実
- 景観に配慮した各店舗周辺的环境整備
- ガーデン管理および環境美化による 癒しの空間を提供
- 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費増加を抑制
- 収入に応じた支出管理の徹底
- POSシステムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理

### 3. 出張販売

場所	事業名	期日
甲府 イトーヨーカドー 甲府昭和店	出張販売	5/24～5/28
稲城 くろがねや稲城押立店	出張販売	6/10～7/2
長坂 スポーツ公園	北杜ふるさとまつり	8/6
名古屋 丸栄百貨店	山梨の物産と観光展	8/31～9/5
茅ヶ崎 イオン茅ヶ崎中央店	出張販売	9/27～10/1
川崎 日本食肉流通センター	ちくさんフードフェア	10/7～10/8
茅ヶ崎 イオン茅ヶ崎中央店	出張販売	10/18～10/22
甲府 イトーヨーカドー 甲府昭和店	出張販売	10/25～10/29
新潟 新潟伊勢丹	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	10/27～11/5
羽村 富士見公園	羽村市産業祭	11/4～11/5
稲城 くろがねや稲城押立店	出張販売	11/11～12/10
新宿 京王百貨店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/10～1/23
池袋 東武百貨店	IKEBUKURO パン祭	3/21～3/27

出張販売件数	ソフトクリーム売上	物販売上	合計（税別）
13 件	18,254 千円	1,750 千円	20,004 千円
前年 9 件	16,058 千円	1,456 千円	17,514 千円
前年比	2,196 千円／113.7%	294 千円／120.2%	2,490 千円／114.2%

## 収益Ⅱ．ホテル事業

### 1. 清泉寮

研修宿泊施設としての役割を果たすと共に、一般のお客様の宿泊や食事、パーティーやブライダルなどの受け入れについても積極的に行いました。

- (1)宿泊予約 AGT との提携により、客室稼働に応じた多様なプラン設定を行い、宿泊売上の増加を図りました。
- (2)地域の学校や企業、団体への利用に向けての営業を強化し、入社式などのイベントや、忘年会、食事会、謝恩会などの獲得に繋がりました。
- (3)レノックス礼拝堂や黙想館といった清泉寮の特徴を生かしたブライダルの獲得を推進し、同時に衣装や着付、装花など関連分野のコーディネートも行ったことにより、売上の増加を図りました。
- (4)HP のリニューアルを行うとともに、地域への紙媒体への広告、インターネットや SNS を活かした効果的な情報発信を継続することで、清泉寮の利用拡大はもとより、財団の他施設や商品・サービスの利用促進や財団の理念の周知による支援者の獲得に繋がりました。

## 本部(管理部門)

### 企画

#### 1. 企画関連業務

- (1)ポール・ラッシュ生誕 120 周年記念事業  
ポール・ラッシュ生誕 120 周年記念コンサートをはじめとする事業を実施しました。
- (2)新規事業・特命事項に関する調査・運営計画の策定
  - ①牛乳販路拡大による営業活動  
各種商談会に出展する等、有機ジャージー牛乳の販路拡大に向けた営業活動を行いました。
    - ・4月6日～19日  
京王百貨店新宿店「春の大食品祭」において限定販売したスイーツで使用
    - ・7月28日  
展示商談会：やまなし食のマッチングフェア(山梨中央銀行主催)出展
    - ・12月17日・28日  
セブンイレブンジャパン長野・山梨限定「清泉寮ジャージー牛乳カステラ」販売
    - ・2月14日～16日  
展示商談会：スーパーマーケットトレードショー出展
- (3)組織及び運営の改善、合理化の研究・提言  
営業に係るチラシのガイドラインを作成し、販売戦力につなげる広告物の管理を行いました。
- (4)各プロジェクトの進捗管理  
ギフト販売強化に向けたプロジェクトの事務局を行いました。

#### 2. 広報業務

- (1)効果的な広報・宣伝広告戦略の構築  
県内外へのメディアに定期的なプレスリリースと、配信サービスを活用し、WEBニュースへの掲載を図り、宣伝広告の情報発信を行いました。
- (2)ホームページ・Facebook・twitterに関する管理業務  
清泉寮ホームページのリニューアルと定期的な更新を行ったほか、公式 Facebook と公式 twitter でも情報発信を行いました。
- (3)メディア対応等に関する業務  
雑誌掲載・TV番組、商材撮影などの円滑な対応と、よりよいPRにつながる発展的提案を行いました。

対応実績

カテゴリ	件数
大手観光情報誌(るるぶ、まっぷるなど)	25
その他情報誌(ローカル誌、フリーペーパーなど)	19
情報WEBサイト、アプリなど	12
新聞(一般、県内紙など)	16
TV番組(在京キー局)	6
TV番組(ローカル)	10
BS・CS、ケーブルTV番組	4
ラジオ番組	4
商材撮影(カタログ、ミュージックビデオなど)	4
広告出稿	8

#### (4)パンフレット・印刷物作成・発信の管理業務

季節の情報と営業施設の案内パンフレット「清泉寮まるごとマップ」などの印刷物の継続的な改善と発行を行いました。

#### (5)インバウンド促進に関する業務

インバウンド向け「清泉寮まるごとマップ 中国語版」と「清泉寮まるごとマップ 英語版」を作成して、外部にも発信しました。

#### (6)地域との連携による広報

地域の観光施設やメディア、WEB サイト等と連携し、エリアとしての魅力を高める情報発信も行いました。

### 3. 職員教育訓練業務

(1)業務への取り組み意欲と資質の向上を図るため、各種研修情報を発信し教育訓練を拡充しました。

#### ①外部研修

接客等専門知識の吸収、教養と識見の向上を図りました。

(2)キープ協会の設立運営理念や歴史的経緯の理解のための研修の実施

#### ①新入職員・若手職員対象フレッシュマン研修

キープ協会の歴史的背景の習得、体験を通して理解を深める内容で実施しました。

### 4. 募金の管理業務

(1)遺贈プログラム策定等の募金に関する事務局業務

募金計画について今後の方向性について検討しました。

(2)Friends of KEEP 会員組織活動

#### ①会員獲得活動

a.キープ協会維持会員(個人)・・・285名(前年対比+2名)

b.法人会員・・・16社(前年対比±0社)

c.清泉寮クラブ会員・・・480名(前年対比+55名)

#### ②会報清泉寮通信の作成と発信

a.清泉寮通信と年度収支報告書(会員のみ)を4月に配信しました。

b.2016年度キープ協会維持会員の芳名パネルを作成して、清泉寮本館案内所前に掲出しました。

#### ③メールマガジンの作成と発信

清泉寮宿泊情報のメールマガジン配信にあわせて、会員宛にも清泉寮割引宿泊プランをご案内しました。

(3)顧客名簿の管理等に関する業務

Friends of KEEPの会員向けに清泉寮通信を送付するのに合わせて各事業部で管理している顧客等を名寄せした個人情報を利用し約3,000名に対して清泉寮通信を郵送しました。